

(財) 地震予知総合研究振興会
長岡平野西縁断層帯の活動性評価に関する研究委員会 (第2回)

概要報告

1. 日 時 平成22年10月8日 (金) 14:00~17:00

2. 出席者

主査	東北大学	名誉教授	長谷川 昭
委員	東京大学	名誉教授	阿部 勝征
	長岡技術科学大学	教授	大塚 悟
	防災科学技術研究所		岡田 義光
	東京大学地震研究所	教授	小原 一成
	東京大学地震研究所	名誉教授	金沢 敏彦
	日本大学総合科学研究所	教授	工藤 一嘉
	東京大学地震研究所	教授	瀬瀬 一起
	東京大学地震研究所	准教授	酒井 慎一
	東京大学地震研究所	教授	佐藤 比呂志
	防災科学技術研究所		関口 渉次
	東京大学地震研究所	教授	平田 直
	防災科学技術研究所		堀内 茂木
顧問	東北大学	名誉教授	大竹 政和
	(財) 地震予知総合研究振興会会長		高木 章雄
事務局	(財) 地震予知総合研究振興会		

(敬称略)

3. 議第

- (1) 観測網の設置状況と地震記録の検討及び今後の調査計画について
- (2) 「ひずみ集中帯の重点的調査観測・研究」概要
- (3) ひずみ集中帯地殻構造探査の成果

4. 委員会の状況

開催に先立ち、事務局より小原委員の所属の変更及び新たに関口委員が加わったことが紹介された。その後、これまでの地震観測網の設置状況と次年度以降の調査計画のスケジュールが説明された。また、国が実施している「ひずみ集中帯の重点的調査観測・研究」プロジェクトの概要及びその一環として行われた地殻構造探査の調査結果が紹介された。

(1) 観測網の設置状況及び今後の検討計画について

観測点の設置状況と観測の状況について紹介があり、11月中には全40箇所において観測が可能となる予定であること、そのうち20箇所においてGPS観測を併せて実施する計画があることが紹介された。また、次年度（平成23年度）の検討事項として、震源決定精度の更なる向上を目指し、深部地震構造探査を実施して対象エリアの地下速度構造をより詳細に検証する計画が紹介された。委員会では、有意義な探査結果がえられるようにその仕様について意見交換が行われた。

(2) 「ひずみ集中帯の重点的調査観測・研究」概要

国（文科省）による「ひずみ集中帯の重点的調査観測・研究」プロジェクトの概要が紹介された。ひずみ集中帯のメカニズムの解明及び震源断層モデルの構築を目指すものであり、長岡平野西縁断層帯周辺においても、主に①自然地震観測、②地殻構造調査、③GPS観測、④地形地質調査、⑤歴史地震調査が実施されているとの説明があった。委員会では、それぞれの研究での観測記録や検討成果を相互に活用できることが望ましいとの意見があり、今後の取り組みにおける相互の情報交換の重要性が認識された。

(3) ひずみ集中帯地殻構造探査の成果

(2) で紹介されたプロジェクトのうち、②地殻構造調査の結果（2008年度三条一弥彦側線、2009年度会津一佐渡側線）が紹介された。日本海の形成やそれに伴う新潟周辺地域の地下構造についての解釈、構造調査の概要及び調査結果の解釈についての説明がなされた。委員会では、今回の調査結果から佐渡海盆東縁部における地形形成のパターンは角田・弥彦断層の活動によって説明が可能であるとの意見があった。

以上